

青梅市文化財ニュース

第 9 1 号

平成 7 年 5 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

山号あれこれ

青梅のお寺には必ず山号がついています。むかし、中国では、お寺は町なかではなく、山の上やその麓に建てられていたようです。そこで、その寺の所在を示す意味で〇〇山という山号が生まれました。しかし、中国大陆や朝鮮半島から仏教が日本に伝来した、飛鳥や天平時代のお寺には山号がありませんでした。実際に奈良にある有名な東大寺や興福寺には山号がありません。これは平地にお寺が建ったためといわれています。その後平安時代になり天台、真言の寺が山に建てられ、その山の名を取り比叡山、高野山という山号が付けられました。その次の鎌倉時代には禅宗が中国の五山の制度に習い山号をつけ、それからは平地の山でも山号が付けられたようです。さて、青梅の寺院の山号を見てみましょう。

天ヶ瀬にある金剛寺は、青梅山という山号です。この名の由来は平将門が一枝の梅をその地に指して我願成就あれば栄うべし、しからずんば枯れよかしと誓ったところ見事に新芽を吹き繁茂し、その実は成熟の時を過ぎても青々していた為「青梅」と呼ばれ、青梅の地名になったともいわれる云い伝えから、山号になったといえます。このような、山号が地名になった寺や地名を山号にしたお寺は、他にも大柳山東光寺、友田山花蔵院、黒沢山聞修院、勝沼乗願寺などがありますが、成木の安楽寺はその昔、行基菩薩が諸国行脚の途中、山上の樟の巨木が鳴動して光を発し、その中に軍荼利の形を見たので、その木を彫刻し軍荼利明王の像を安置し寺を興ったということから、樟が鳴った鳴木から成木とし山号を成木山と号したといわれています。また山の名をそのまま山号にしたお寺には愛宕山明王院即清寺や高水山竜学寺常福院などがあります。本尊様が薬師如来です。この仏様の別名を大医王仏とか医王善逝と呼びます。薬師如来はこの世で苦しむ人々の病原を救い、これを治すことを誓願に掲げている仏様です。ですので薬王寺の山号の医王山はこの薬師如来の別名から付けられたと言われますが、今は七国山とも称しています。また塩船の観音寺は本尊様が十一面千手観世音菩薩です。観音様に関するお経は観音経を初めたくさんありますが、大悲心陀羅尼という名のお経があります。これは千手観音のお経で千手観音は別名、大悲観音として特に信仰が厚い仏様です。大悲とは人々の苦しみをわが苦しみの如く感じ、慈愛あふれる心で、その苦しみを癒す心のことと言います。その大悲山が塩船観音寺の山号です。似た感じの山号に無量山聚徳院があります。これは観音経の

一説「福聚海無量」から付けたのではないかとされていますが、ここの本尊様も観音様です。まだまだ他にもいろいろな縁で付けられた山号があります。また、山号が変わることもあります。山号をじっくり調べることも、実に興味深いことだと思います。

(文責 棚橋)

・青梅市教育委員会では市民の方々の協力のもと、文化財映画『みたけ』、『青梅新町の大井戸』、『青梅の町屋』の3本を作成いたしました。映画は16mmとビデオテープがあり、無料貸し出しをしております。ぜひ、鑑賞してみてください。詳しくは郷土資料室まで。